

## 水環境・海域(5) (1-B-16-3~1-B-17-4)

本セッションでは、前半四題は、海藻による重金属類の蓄積、褐藻類や海草の生息場の評価・復元についての発表が占め、後半二題は水耕栽培と魚類導入を伴うラグーンシステムによる水質浄化実験、ならびに河口域における底泥中の金属類の分布と蓄積年代推定についての発表からなっていた。16-3 では、最近、沿岸域においてその異常繁茂が顕在化しているアオサについて、野外調査と室内実験による鉄、鉛、銅、亜鉛、カドミウムの蓄積について実現場と室内実験による検討がなされ、海水中の鉄、亜鉛、銅が選択的に吸収されていることが示された。16-4 では、松島湾における環境修復事業の一環として、大型褐藻の一種アカモクの資源再生についての取り組みの事例紹介がなされ、アカモクによる水質浄化、機能性食品・飼料としての利用や効能、市民参加の実績も示され、今後、更なる発展が期待された。17-1~17-2の二題は、同一グループによる広島湾におけるアマモ場の評価と形成について発表が続き、17-1 では、浚渫窪地の埋め戻し海底へのアマモ場の造成が土着のアオサの繁茂が大きく阻害されること、17-2 では、アマモ場に対する自然環境のおよぼす影響について検討がなされ、台風による底泥環境の攪乱、アオサの繁茂がアマモ場形成を阻害していることが示された。17-3 では、東南アジアにおける水環境改善と食料生産を念頭に置いて、食用水生植物と魚類の導入による水質浄化に対する効果についての検討がなされていたが、期待される食物連鎖による効果が必ずしも得られておらず、今後更なる検討が望まれた。最後の18-1 では、多摩川河口域における底泥中の金属類の分布についての調査事例が発表され、特に特定事業者の由来と思われる銀について、排水処理施設の導入の時期と、鉛直方向における銀の蓄積ピークの年代が符合しているという結果が示されていて、非常に興味深かった。

(国立環境研究所 牧 秀明)